

報告 初秋の黒山自然公園エコハイク そこかしこに動物の気配が・・・

10月22日(土)。県立黒山自然公園(笹郷林道から顔振峠・黒山三滝へ)参加者10名(会員等3名、スタッフ7名)。担当:西部ネット。今回も新聞に掲載がされず一般からの申込はなく、さみしい人数の行事になりましたが、自然に明るい方ばかりで、話題に事欠くことは無く、和やかな自然観察の一日になりました。

報告:西部ネット・清水



まずは緩やかな上りの笹郷林道を進みます。写真(上)は、樹洞を出入りするミツバチを追って巣を観察している様子です。「ニホンミツバチだね」との反応あり。ハチと聞くと一般の方は逃げ腰になるのですが、やはり会員は違います。この辺りからいろいろなものを見つけては立ち止まり、思いおもいに解説やら疑問がでてきます。



「これはセキヤノアキチョウジです。今日はたくさん出てきます。アキチョウジという種もあります。観察して違いをみておきましょう、それと生育環境も」。うながされて、図鑑を見る人、写真を撮る人、座つ

てのぞき込む人、観察の仕方もうろいります。歩くとすぐにけもの道が目に入ります。斜面の崩れ具合を見ながら通った動物を想像します。路肩の掘り返した跡は「イノシシのしわざ」です。林縁は草や低木が一定の高さで刈り取られたようになっています。「シカでしょうか?」の声に答えて、「昔は山羊にアオキを餌としてやったことがある」という話が飛び出しました。なるほどアオキがよく食べられているわけです。斜面に下がったアケビの実は美味しいところが無くなっています。犯人は誰だろう?・・・こんな風に観察をしながら林道は終点に。ここから登山道に入り、諏訪神社、顔振峠をめざしました。

山地の林中はあまり陽が入っていません。足元にはツルリンドウやツルアリドオシが実をつけています。山によく出かけるという参加者にはあまり珍しくはないようですが、カメラには収まりました。昼食後は顔振峠で景観を味わい、峠の名前の云われや戊申戦争で飯能から逃れてきた渋沢平九郎の話に。そして奥武蔵グリーンロードを歩き、傘杉峠から黒山三滝へ下りました。ここではクワガタソウの花と実に惹かれ、シャッターがおりました。



三滝といえば、アオネカズラです。ここが北限のシダで県の天然記念物です。せっかくですから見ておきましょう!の声におされて目をこらして探しました。